

平成 21 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2009 - A - 24

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地震活動評価に基づく地震発生予測英文：Earthquake forecast system based on seismicity of Japan4. 研究代表者所属・氏名 早稲田大学 国際教養学部・岩田 貴樹(地震研究所担当教員名) 鶴岡 弘

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
岡田正実	気象研究所	参加	平成 21 年 3 月 17 日	1	有

6. 研究内容 (コンマ区切りで 3 つ以上のキーワードおよび 400 字程度の成果概要を記入)

キーワード：

地震発生に至る地殻の物理的素過程が明らかになったとしても、来るべき地震の時期、場所や大きさが決定論的に予測できるようになることは考えづらい。これは、地震を含む破壊現象には非線形的な要素が少なからず含まれていると考えられるからである。地震発生予測の進展のためには、統計モデルや物理モデルに基づく地震活動予測アルゴリズムを時空間的に高分解能かつ高精度化する必要があり、それらのアルゴリズムの妥当性を評価・検証する仕組みの構築もなされる必要がある。これらを効率的に実施していくための地震データの品質管理や地震活動予測アルゴリズムを備えたソフトウェアの有機的な結合を実施し、地震活動に基づく地震発生予測研究の基盤構築を行う。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*¹または 2000~3000 字の報告書)(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

楠城 一嘉, 鶴岡 弘, 平田 直, 笠原 敬司 (2009) 地震発生予測システムの構築に向けて-統計物理学者に望むこと-, 物性研究, 93(2), 125-142. 謝辞への記載無, ポイント 3

楠城 一嘉, 鶴岡 弘, 笠原 敬司, 酒井 慎一, 平田 直, 小原 一成, 首都圏の地震カタログの統合へ向けた品質評価, 地震研究所彙報, 84, 2, 141-148, 2009. 謝辞への記載無, ポイント 3